岩手農大同窓会会報

第　17　号
平成22年3月1日

発行・編集
岩手県立農業大学校同窓会
岩手県胆沢郡金ケ崎町蟹子沢14　TEL0197-43-2211

題字は伊藤会長

同窓会会報の発行にあたって

岩手県立農業大学校同窓会
会　長　伊　藤　　寛

本校同窓会会員の皆様には、ご健勝で平成22年の新春を迎えられたことと、心からお慶び申しあげます。

さて、同窓会活動につきましては、各支部長さんはじめ、関係者のご協力により、毎年度開催の定例総会において承認されました事業計画、予算に基づき、執行させていただいております。入学式、卒業式への出席をはじめ、農業創造シンポジウム、学生の海外派遣研修、緑の学園事業への支援及び参加協力。そして同窓会全国連盟、東北・北海道ブロック会議等に出席して情報交換に努めたこと等であります。

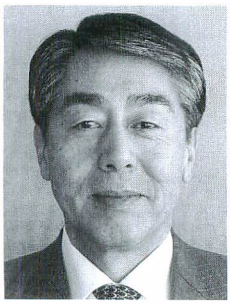
このほか、県内12支部において、支部長さんを中心にした地域の特色を生かした活動があり、その取り組み状況が「支部だより」に紹介されているとおりであります。

本校は昭和７年に創立以来幾多の変遷はありましたが、一貫して「次代の担い手育成」のための実践教育施設としてその役割を果たして参りました。

そして、昭和56年４月に、農業講習所、営農大学校、蚕業講習所、経営伝習農場の系列研修施設を統合し、新制の農業短期大学校として発足、名実ともに岩手県の中核的農業教育施設となりました。

本年はそれから30周年を迎えることとなりました。この節目の年にあたり、同窓会としても、何らかの記念行事をしてはとの提案もありましたので、現在事務局で具体案の立案中であります。近く役員会等で細部について協議したいと思います。決定になりましたなら、会員の皆様にご賛同をえて実施いたしますので、その際はよろしくお願い申しあげます。

以上最近の情勢等を申しあげ、会報発行にあたってのごあいさつといたします。



同窓会会報に寄せて

～ 岩手農大の近況 ～

岩手県立農業大学校
校長　伊五沢　正　光

昭和56年に当時の農業短期大学校、蚕業講習所、六原営農大学校の３農業教育施設が合併して開校した現在の農業大学校は、来年度には30周年を迎えることとなります。この間の入学者数は2,400人余りとなり、今年も卒業生を送り出す季節となりました。

同窓会の皆様には、海外派遣研修や農大祭、農業創造シンポジウムなどの本校の教育活動に対し、多くのご支援をいただいております。また、会員の皆様には農家派遣実習で学生を受入れ、さらにいくつかの地域では期間中に実習先を訪れたり、情報交換会の場を設定し、学生を激励して頂くなど、多くのご支援を頂いておりますことに感謝申し上げます。

さて、今年の卒業生の進路は、自家や農業法人などの直接就農が14名、本校研究科や岩手大学・静岡大学への編入学などの進学が７名、農協などの農業団体に11名、農業機械等の農業関連会社へ10名の就職が内定しておりますが、一昨年からの不況下での就職難で３割以上の学生の進路が定まっておらず、大変厳しい状況となっております。

一方、昨今の食料や農業への関心の高まりの中で、本校で実施しております「いわて農業入門塾」や「新規就農者研修」などの農業者研修の受講希望者が大幅に増えております。

なお、平成８年から生物工学課程（植物コース、動物コース）と経営課程を設置してきました本校の研究科は、来年度からは課程・コースを廃止し、就農予定者を対象として学生それぞれの希望に沿った、いわゆるオーダーメイド型の教育内容を組み立て、これまでのテーマ研究に加えて、各々の営農計画を策定し就農に備える内容に再編することとしております。

同窓会員の皆様の益々のご健康とご多幸を祈り、本校の教育活動につきまして、従前に増してご理解とご支援賜りますようお願い申し上げます。

◆支部便り◆

奥州支部

農大のお膝元に産直施設開店

奥州支部
支部長　菅　原　幸　明

農大の地元の支部ですが、これといった活動を行っていないのが現状であります。今回、農大との関わりで、少しずつ変わりゆく地元六原の一端を紹介してみます。

六原地域は、農村地帯ではありますが、農地の基盤整備や集落排水事業等は他の地域より少し遅れています。しかし、目新しいものとして産直が一昨年発足して活動中であります。名称は「産直六ちゃん」と言い、場所は国道四号線の赤鳥居から西に入って、農大とのほぼ中間に位置し、旧ＪＡ六原支店の建物を利用しています。

構成員には農大ＯＢ７名も参加し、四季折々の農産物が所狭しと並んでいます。また、農大も参加していて、りんご、梨、ブルーベリーなど地元にない希少な作物を出荷していただき、地域の栽培の大きな牽引力になっています。

産直では、春、秋、の花きセンター祭りや、10月の農大祭に合わせてイベントを組み、遠来の参観者への接待を行っています。

県内の産直から見ると、規模は小さく構成員も少ないですが、頑張っていますので、農大への往来の折には是非お立ち寄りください。　一方、農大生自体も、生産から販売までの体験として、７月～11月まで月１回校内で農産物の直売を行っています。これは、品数も豊富で、野菜、花、果物を取りそろえて地元の消費者から大いに喜ばれ、開催日には行列ができるほどの賑わいとなっています。

このことは、地元農家にとっても大きな刺激となっているものと感じます。

農大のこのような動きが、地元六原地域の活性化につながればと思いつつ、農大の益々の発展を祈念いたします。

「産直　六ちゃん」

二戸支部

地元農業を牽引する同窓生

二戸支部
支部長　中　谷　　勲

一昨年のリーマンショックに始まった世界同時不況から、明るい展望の見えぬまま2010年が明けました。昨年は日本の政治状況も大きく変わり、従来の諸制度も見直されることとなりましたが、果たして農家にとってはどんな影響があるのでしょうか。新政権の打ち出した戸別所得保証制度によって、米価等はどう変わるのか関心事です。従来も様々な制度は猫の目の如く出ては変わる度に農家は翻弄されてきた歴史があります。

そんな中でも農業を愛し、信念を持って頑張っている卒業生は地域内に沢山います。

雑穀栽培に意欲的に取り組み、近くの小中学生に食の安心安全を実習させながら教えたり、皇室にも献上するなど、食生活の改善にも大きな役割を果たし、今の健康食ブームの立役者となっている人や、苦労しながら自生のヤマブドウからいい苗を選抜し立派なヤマブドウ園を経営している人もいます。また、大型酪農や養豚、ブロイラー、野菜、ハウス園芸等に取り組む優秀な農家だけでなく、地方議会の議員さんや農業農村指導士として地域の信望を集め指導力を発揮している人など、彼等の姿を見るにつけまことに頼もしく感じる次第です。このような状況は、当支部に限らず他の支部でも同様のことと思います。

年々農家戸数が減少する中にあっても、基礎技術を身につけ、農村にしっかり根を下ろして地域農業の牽引役として頑張る人達がいてこそ日本農業が守られていく事を思えば、今後に続く子弟の教育機関である農大の果たす役割は重要度を増すものと思います。岩手県も日本の食糧基地を標榜する限りは、財政的に苦しいとはいえ多少の予算の出し惜しみはすべきではないと思います。

結局農業は、やる気のある人たちに委ねることにしかならないのだから。

雑穀栽培の立役者　高村英世氏（二戸市米沢）

「農業創造シンポジウム」開催される

11月13日本校大教室において、今年で８回目となる農業創造シンポジウムを開催しました。今年は、「新たなアグリビジネスへの挑戦」をテーマに第１部は３名の講師に講演いただき、第２部では学生を交えてパネルディスカッションを行いました。

講師には、㈱せいぶ農産ダイレクト・宮川光太郎専務取締役、一関市鉢花生産者佐藤修司氏、㈱惣兵衛・畠山さゆり代表取締役をお招きしました。京都出身の宮川氏は実家が農家であることはそれだけで恵まれた財産（人、土地、つながり等）を持っている事であり、即農業ができる環境にある人は、そのことにあらためて感謝してほしい、自分は農業を通じて社会をよくしたい、ビジネスとしての農業で地域と共に満足を得られるような仕事をしていきたいと話されました。続く、佐藤さん、畠山さんの講演に対しても学生達は身を乗り出して聞き入り、講師の皆さんのユニークな発想や実行力に深く感銘を受けていたようでした。

第２部のパネルディスカッションでは、本校の藤本教育部長の進行のもと緊張した面持ちの学生達から「新しいことに挑戦するとき、どのような不安を感じましたか？」といった質問や、新商品のアイデアについての意見が出されました。

講師の方々は休憩中にも学生から質問攻めにあい、予定の３時間があっという間に過ぎた充実したシンポジウムとなりました。

平成21年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告（抜粋）

開催日■平成21年４月21日(火)　開催場所■岩手県立農業大学校農業研修館

1. 平成21年度事業計画・実績

(1) 支部活動の促進
(2) 同窓会会員台帳の整備
(3) 同窓会会報の発行　平成22年３月上旬　1,000部
(4) 農業大学校卒業生（直近５年間）交流への支援
(5) 農業大学校事業支援
　①農大祭への支援　平成21年10月31日(土)～11月１日(日)
　②農業創造シンポジウムへの支援　平成21年11月13日(金)
　③本科２年生64名の海外派遣研修支援
　　平成21年８月24日～31日、アメリカ合衆国カリフォルニア州
　④高校生対象の「緑の学園」事業支援
　　第１期　平成21年７月30日(木)～31日(金)
　　第２期　平成21年８月４日(火)
(6) 農業大学校同窓会全国連盟及び東日本農業大学校同窓会連盟への参加
　　全国連盟理事会　平成21年５月29日(金)　東京
　　全国連盟総会　平成21年７月21日(火)　東京
　　東日本連盟総会　平成21年７月１日(水)～２日(木)　青森県
(7) その他
　　平成21年度入学式　平成21年４月９日(木)
　　平成21年度卒業式　平成22年３月11日(木)
(8) 役員会・総会
　　総会及び役員会　４月21日(火)
　　役員会　10月31日(土)

同窓会役員名簿（平成21年～22年）

役職	氏名	支部名
会長	伊藤　寛	北上
副会長	菅原　幸明	奥州
〃	菊地　政男	宮古
理事	竹鼻　邦夫	盛岡
〃	菅原　博	紫波
〃	田中　清資	岩手
〃	藤原　勝栄	花巻
〃	槻山　隆	一関
〃	林田　勲	気仙

役職	氏名	支部名
理事	菊池　長助	遠野
〃	岩城　明	久慈
〃	中谷　勲	二戸
監事	千田　敏夫	北上
〃	及川久仁江	奥州
事務局長	高橋　栄蔵	奥州

※岩手支部は新体制が未決定ため、旧体制の名簿を載せた。

2. 平成21年度収支予算

収入総額　964,658円
支出総額　964,658円
差引残高　0円

1)収入の部

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘要
1 繰越金	94,258	152,603	△58,345	前年度繰越金
2 会費	540,000	630,000	△90,000	会費　54名×10,000円
3 寄付金	0	0	0	
4 雑収入	400	397	3	預金利子等
(緑の学園)	330,000	330,000	0	農業公社より
合計	964,658	1,113,000	△148,342	

2)支出の部

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘要
1 総務費	120,000	120,000	0	
1)事務費	30,000	30,000	0	切手・振込手数料
2)会議費	90,000	90,000	0	総会、役員会
2 負担金	85,000	85,000	0	後援会費 30,000円 全国連盟 50,000円 東日本連盟 5,000円
3 活動費	710,000	726,000	△16,000	
1)支部活動費	90,000	96,000	△6,000	支部当たり8,000円～20,000円以内
2)大会参加費	100,000	100,000	0	全国連盟・東日本連盟総会
3)農大祭支援	30,000	30,000	0	
4)農業創造シンポジウム支援	20,000	30,000	△10,000	
5)卒業生交流等	10,000	10,000	0	
6)会報発行	55,000	55,000	0	同窓会会報
7)国際交流協議会補助	70,000	70,000	0	
8)卒業生表彰	5,000	5,000	0	卒業生表彰(東日本連盟副賞)
(緑の学園)	330,000	330,000	0	
4 積立金	0	170,000	△170,000	
5 予備費	49,658	12,000	37,658	
合計	964,658	1,113,000	△148,342	

※　積立金合計額　840,000円(平成12年度～平成20年度)